



# 病害虫情報 10月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

平成30年10月1日

神奈川県農業共済組合

# 病害虫情報(第7号)10月予報

平成30年10月1日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333  
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 10月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 …………… 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、チャ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 …………… 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成30年9月26日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 10月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
縞葉枯病	—	—	※ 9月調査で縞葉枯病の発生は平年並であるが、媒介虫のヒメトビウカの越冬場所を減らす目的で次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。

### 【カンキツ】 生育:早(足柄地区事務所:普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
ミカンハダニ	やや少	○	ダニサラバフロアブル [前日,2回] 1,000~2,000倍 オマイト水和剤 みかん: [7日,2回] 750倍 みかんを除くかんきつ: [14日,2回] 750倍 等 ※ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除が重要である。
カメムシ類	やや多	○	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 等 ※ 新世代成虫の発生量はやや多いと予想される。特に、山際の園では飛来の可能性があるので注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### 【ナシ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
黒星病	やや少	○	(予) オキシラン水和剤 [3日,9回] 500~600倍 等 ☞ オキシラン水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。 ※ 休眠芽への感染時期になるので、防除を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カメムシ類	やや多	○	アクタラ顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000倍 テルスターフロアブル [3日,2回] 3,000~6,000倍 等 ❖ 新世代成虫の発生量はやや多いと予想される。特に、山際の園では飛来の可能性があるので注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	並	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ❖ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるのでラベルの記載に従うこと。 ❖ カンザワハダニは、秋に防除することで、大きな効果が得られる。
チャトゲコナジラミ	—	△	❖ チャトゲコナジラミは幼虫がすそ葉の葉裏に多く寄生するので、散布前にすそ刈りを行い、すそ部から茶株の頂上部に向けて斜め上方に薬液を散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 1,000～2,000倍、葉かび病: 1,000倍												
うどんこ病	—	○	(予・治) カンタスドライフロアブル [前日, 3回] 葉かび病: 1,000～1,500倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病: 2,000倍 等 ☞ パンチョは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 葉かび病の抵抗性品種を使用している場合でも、その抵抗性を無効化させないために、圃場内の菌密度上昇を防ぐ薬剤防除は必要。												
アブラムシ類	やや少	○	ベストガード水溶剤 [前日, 3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類 コナジラミ類: 2,000倍、□												
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○	ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍												
アザミウマ類	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍 デアナSC [前日, 2回] アザミウマ類: 2,500～5,000倍、コナジラミ類: 2,500倍 エコピタ液剤 [前日, —] アブラムシ類: 100倍、コナジラミ類: 100～200倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
			◆ 施設内外の雑草防除を徹底する。 ◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的である。												

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント								
アブラムシ類	やや少	○	<b>【育苗培土混和または育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [は種時又は鉢上げ時,1回] アブラムシ類、コナジラミ類:5g/培土L 又は、[育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1~2g/株 ☞ 定植時までの処理は、1回以内。 <b>【育苗期:粒剤施用】</b> アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] □ コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期:散布】</b> ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍								
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○									
アザミウマ類	並	○									
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 育苗期のウイルス病感染防止策を徹底するとともに、育苗施設内外の除草を徹底する。</li> <li>◆ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットのトンネル掛けする。</li> <li>◆ 害虫の発生確認や防除のため黄色粘着板や粘着テープの吊下げも効果的である。</li> </ul>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類	TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫										
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類										
TYLCV(トマト黄化葉巻病) ToCV(トマト黄化病)	コナジラミ類										
TSWV(トマト黄化えそ病) CSNV(トマト茎えそ病)	アザミウマ類										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	並	○	(予・治) ライメイフロアブル [前日,4回] 2,000~4,000倍 (予・治) ゴーベックエニケード [前日,2回] 5,000倍 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000~1,500倍 等 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。									
うどんこ病	やや多	○	(予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] 1,000~2,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日,3回] 3,000~4,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 乾燥で発生が助長されるので、日中の過乾燥に注意する。									
褐斑病	並	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治) カンタスドライフロアブル [前日,3回] 1,500倍 等 ◆ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。									
コナジラミ類 タバココナジラミ	並	○	ディアナSC [前日,2回] アザミウマ類:2,500~5,000倍、コナジラミ類:2,500倍									
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 カスケード乳剤 [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:2,000~4,000倍									
アブラムシ類	やや少	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設内外の除草を徹底するとともに、栽培に関係のない鉢物等を施設内に持ち込まない。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成イチゴ】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] 1,000～2,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [前日, 2回] 3,000～4,000倍 (予・治) プロパティフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [収穫開始14日前, 3回] 1,000倍 等
アブラムシ類	やや少	○	サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] 2,000～4,000倍 等
アザミウマ類	—	○	マッチ乳剤 [前日, 4回] ミカンキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍 ハスモンヨトウ: 3,000倍
ハスモンヨトウ	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 2,000倍 アフーム乳剤 [前日, 2回] ハスモンヨトウ: 2,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト水和剤 [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### ミツバチへの影響

- ▶ 農薬散布の際は、巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。
- ▶ 影響のある剤: アフーム(1日)、コロマイト(1日)、モレスタン(3日)

### タフパールと上記掲載剤の散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ ポリオキシシ、サンクリスタル、モスピラン(水溶剤)、マッチ、アフーム、コロマイト: 混用事例あり、サンヨール、カリグリーン、モレスタン: 3日以上

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	やや多	○	(予・治) アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 (予・治) サプロール乳剤 [前日,5回] さび病:800~1,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [7日,2回] さび病:1,000倍
黒斑病	やや多	○	(予・治) ロブラール水和剤 [14日,3回] 黒斑病:1,000~1,500倍 等 ◆ 発生初期の防除を徹底する。 ◆ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	ダントツ粒剤 [3日,4回:株元散布] ネギアザミウマ:3~6kg/10a スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回]
シロイチモジヨトウ	多	○	アザミウマ類:2,500~5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍 ハチハチ乳剤 [7日,2回] 1,000倍 ファルコンフロアブル [前日,2回] シロイチモジヨトウ:4,000倍 プレバソフフロアブル5 [3日,3回] シロイチモジヨトウ:2,000倍 等 ◆ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	やや多	○	(予) Zボルドー [-,-] 500倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。但し、汚れをおこすため収穫間際の使用は控える。
菌核病	—	○	(予・治) アミスター20フロアブル [7日,4回] 2,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000~1,500倍 等
コナガ	やや多	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] コナガ、ハスモンヨトウ:1,000~1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。
ハスモンヨトウ	並	○	トルネードエースDF [7日,2回] コナガ:1,000~2,000倍、ハスモンヨトウ:2,000倍
オオタバコガ	並	○	ファルコンフロアブル [7日,2回] コナガ:1,000倍 ハスモンヨトウ:2,000~4,000倍、オオタバコガ:2,000倍 等 ◆ 大型鱗翅目害虫では、結球内に潜り込んだ幼虫には薬剤の効果が劣るので、結球前までの防除を徹底する。
ネギアザミウマ	多	○	ハチハチ乳剤 [14日,2回] アザミウマ類:1,000倍、アブラムシ類:1,000~2,000倍
アブラムシ類	やや少	○	アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] □ ネギアザミウマ:1,000倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略



# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ダイコン】

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
白さび病 (ワッカ症)	—	○	(予) ヨネポン水和剤 [7日,4回] 白さび病:500倍 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,2回] 1,000倍 等
アブラムシ類	やや少	○	ハチハチ乳剤 [30日,1回] 2,000倍 アファームエクセラ顆粒水和剤 [14日,3回] ハイマダラノメイガ:1,500倍
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンク イムシ)	やや多	○	☞ <b>アファームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。</b> モスピラン顆粒水溶剤 [14日,1回] アブラムシ類:2,000~4,000倍 チューンアップ顆粒水和剤 [発生初期(但し、前日),-] ハイマダラノメイガ:2,000~3,000倍 等
ナモグリバエ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月)

神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 10月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 10月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部9月25日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	20%	40%	40%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	40%	40%	20%

\*9月20日発表1か月予報による。

### (2) 10月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、寄生は見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察圃(上吉沢)では、発病が見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
カンキツ カキ	カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、カキ果実での発生は平年並。(±) 2) 巡回調査では、ナシ果実での発生は平年よりやや多い。(＋) 3) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年に比べ伊勢原、南足柄で少なく(－)、県予察ほ(根府川)では平年並(±)。 4) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年に比べ伊勢原で多く(＋)、山北でやや多く(＋)、県予察ほ(上吉沢)、県予察ほ(根府川)で平年並(±)。 5) ヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの寄生数は、平年より多い。(＋) 6) ヒノキ球果におけるカメムシの口針鞘数は、平年より少ない。(－) 7) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
チャ	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	並	1) 抑制トマトの巡回調査では、タバココナジラミの発生が9年平均並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 抑制トマトの巡回調査では、被害は見られず、発生が9年平均並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
抑制キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 9月上中旬の日照時間は平年より少なく、降水量は平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	うどんこ病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 9月上中旬の日照時間は平年より少なく、降水量は平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	褐斑病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 9月上中旬の日照時間は平年より少なく、降水量は平年より多かった。(＋) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ワタヘリクロノメイガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月) ..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	さび病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	黒斑病	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	シロイチモジヨトウ	少	多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原、県予察ほ(上吉沢)ともに平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
キャベツ	黒腐病	少	やや多	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(+)
	コナガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜では平年よりやや多く(+)、伊勢原では平年並(±)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)で平年よりやや少なく(-)、(三浦)で平年よりやや多い(+)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ネギアザミウマ	中	多	1) 巡回調査では、発生が9年平均より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
ダイコン	ハイマダラノメイガ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+):多発要因 (-):少発要因

# 病害虫情報

(平成30年・第7号・10月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
野菜全般	アブラムシ類	－	やや少	1) 巡回調査では、キャベツでは発生が平年並(±)、抑制キュウリでは寄生は見られず発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほの黄色水盤への飛来量は、(上吉沢)、(三浦)ともに平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	ハスモンヨトウ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、ヨトウムシ類の寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年並(±)、横浜では平年より多く(+)、伊勢原では平年よりやや少ない(－)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)で平年よりやや少なく(－)、(三浦)で平年より少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)
	オオタバコガ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原では平年より少なく(－)、横浜では平年よりやや多い(+) 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)で平年よりやや多く(+)、(三浦)で平年より少ない(－)。 4) 気温は平年並か高く、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (－): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオペティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオペティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

## ★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオペティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回